

かながわのみちづくり

災害に強く、活力と魅力ある県土の実現をめざし

つながるべき道路をつなげていく



新東名高速道路 河内川橋

路線等位置図



国道246号 都筑青葉地区環境整備事業

東名高速道路 渋滞対策 (大和トンネル付近)

横浜環状道路西側区間

(都)丸子中山茅ヶ崎線

(都)横浜藤沢線

首都圏中央連絡自動車道 (高速横浜環状南線)

国道16号 追浜駅交通ターミナル整備事業

(仮称)横須賀PAスマートIC

第三京浜道路(東京外かく環状道路等との接続)

川崎縦貫道路(Ⅱ期)

川崎縦貫道路(Ⅰ期)

大師JCT

横浜北線

横浜北環

横浜線

滴尾線

国道357号

国道16号

追浜新道

三浦海岸線

(都)安浦下浦線

(都)西海岸線

凡

- 整備促進要望路線
- 事業化要望路線
- 計画推進要望路線
- 必要な事業費の確保を要望する路線
- 高速道路・有料道路
- 国道
- 県道、主要市道
- スマートインターチェンジ
- 道の駅

■: パンフレットに掲載

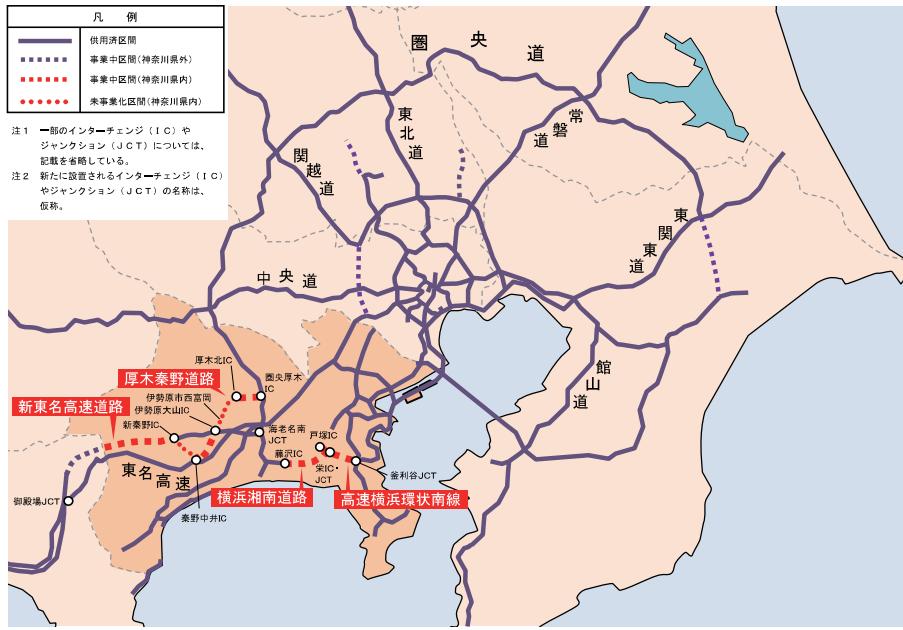
■: パンフレットに掲載

凡

凡 例	
整備促進要望路線	■■■■■■■■
事業化要望路線	■■■■■■■■
計画推進要望路線	■■■■■■■■
必要な事業費の確保を要する路線等	■■■■■■■■
高速道路・有料道路	■■■■■■■■
国 道	■■■■■■■■
県道、主要市道	■■■■■■■■
スマートインターチェンジ	(フル) (ハーフ)
その他	

：（パンコル）人に根載されている白杖走査用道路

：パンコル上に掲載されている一般幹線道路等



首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

圏央道は、都心から約40km～60kmの位置で、東名高速道路などの放射状道路をつなぐ環状道路です。

この道路は、沿線都市間の連絡を強化するほか、都心部へ流入する交通を適切に分散し、道路交通を円滑化することにより、経済活動の活性化・観光地の発展、周辺地域の環境改善等に寄与する重要な道路です。

圏央道の神奈川県内区間は、「さがみ縦貫道路」「横浜湘南道路」「高速横浜環状南線」の3路線で構成されており、このうち、さがみ縦貫道路は平成27年3月に全線が開通しました。

また、平成29年2月の茨城県区間の開通により、現在、圏央道は全体の9割が供用されており、神奈川県では、北関東方面などからの観光客の増加や、沿線地域における企業立地の促進など、多様なストック効果が発揮されています。（P8、10）

こうした効果をさらに高めていくためにも、横浜湘南道路や高速横浜環状南線の早期整備が望まれています。

横浜湘南道路・高速横浜環状南線

横浜湘南道路と高速横浜環状南線は、さがみ縦貫道路などと一緒に、横浜の湾岸エリアや三浦半島と湘南・県央地域の連絡を強化する重要な道路です。

横浜湘南道路は（仮称）栄IC・JCTから藤沢ICまでの約7.5kmの区間、高速横浜環状南線は金利谷JCTから（仮称）戸塚ICまでの約8.9kmの区間で、現在、工事などが実施されています。

（仮称）栄IC・JCT周辺の整備状況



新東名高速道路

新東名高速道路は、首都圏と中京圏を結ぶ大動脈であるとともに、神奈川県内の都市間を結ぶ東西軸を形成する路線です。この道路は、慢性的な交通渋滞に陥っている東名高速道路と交通機能を分担することで、高速性・定時性を確保し、また、地震などによる災害発生時の緊急輸送道路や、東名高速道路の維持管理・更新時の代替路としての役割を果たす重要な道路です。

令和4年4月までに、海老名南JCTから新秦野ICまでの約21kmの区間が開通しました。現在、新秦野ICから新御殿場ICまでの約25kmの区間で工事が進められています。

また、一層の物流の効率化を図るために全線6車線化の早期実現や、計画ルートが未定である海老名南JCT以東の計画の具体化を図ることが望まれています。



厚木秦野道路（国道246号バイパス）

厚木秦野道路（国道246号バイパス）は、国道246号の慢性的な交通混雑の緩和を図るとともに、新東名高速道路などと一緒に高速道路ネットワークを強化し、地域の活性化に寄与する重要な路線です。

全線延長約29kmのうち、圏央厚木ICから（仮称）厚木北IC、伊勢原市西富岡から秦野中井ICまでの区間約14kmが事業化されており、現在、用地取得や工事が実施されています。

（仮称）伊勢原北 IC付近イメージ図



鈴川橋の整備状況



自動車専用道路の渋滞対策

東名高速道路と中央自動車道は、三大都市圏を結ぶ大動脈であるとともに、本県においては、県外に開かれたネットワークを形成する重要な道路です。しかしながら、東名高速道路の大和トンネル付近や中央自動車道の小仏トンネル付近などでは、交通容量不足等により慢性的な渋滞が発生しています。

こうした中、高速道路ネットワークの機能を最大限発揮させるため、東名高速道路では、令和4年11月までに、大和トンネルを含む区間の拡幅や、横浜町田IC下り線の加速車線の延伸が完成し、運用を開始しており、残る区間については、現在、工事等が進められています。

また、中央自動車道では、小仏トンネル付近の上り線及び相模湖付近の下り線について、付加車線設置による渋滞対策が事業化され、現在、工事等が進められています。

東名高速道路 大和トンネル付近 付加車線の運用区間



中央自動車道 小仏トンネル付近上り線混雑状況

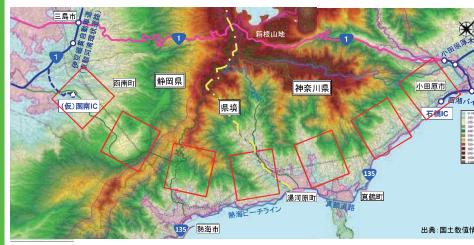


伊豆湘南道路（神奈川と静岡の県境をまたぐ道路）

神奈川県西部地域と静岡県伊豆地域を連絡する国道1号と国道135号は、休日や観光シーズンを中心に著しい交通渋滞が発生しており、また、降雨や積雪による通行規制、高波や土石流の被害による通行止めが生じるなど、物流や観光振興に影響を及ぼしています。

そのため、渋滞緩和やリダンナンシー機能を持つ新たな道路として、伊豆湘南道路（神奈川と静岡の県境をまたぐ道路）の計画具体化に取り組んでいます。

伊豆湘南道路（神奈川と静岡の県境をまたぐ道路）位置図



県道上粕屋厚木

県道上粕屋厚木は、伊勢原市上粕屋と厚木市中心部を結び、伊勢原市内では、新東名高速道路や厚木秦野道路にアクセスする幹線道路です。

計画区間1.9kmのうち、IC接続区間および一部区間1.2kmを令和2年3月の伊勢原大山IC開通までに整備が完了しており、その東側に続く区間の整備を進めています。

伊勢原大山 IC付近

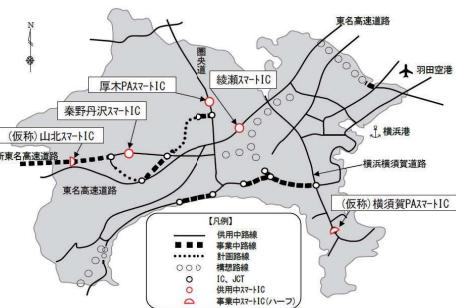


スマートインターチェンジ

スマートインターチェンジは、高速道路の利便性を向上させ、物流の効率化や観光振興のほか、医療機関へのアクセス向上、災害時における物資輸送ルートの確保など、地域の活性化や防災力強化に寄与する施設です。

本県では、令和4年4月までに、厚木PAスマートインターチェンジ、綾瀬スマートインターチェンジ、秦野丹沢スマートインターチェンジが開通し、現在は(仮称)山北スマートインターチェンジ、(仮称)横須賀PAスマートインターチェンジの2箇所でスマートインターチェンジ設置に向けた取組が進められています。

県内のスマートIC



厚木PAスマートIC

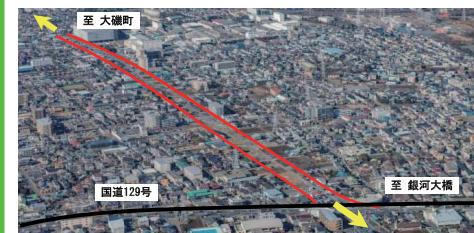


都市計画道路 湘南新道

都市計画道路湘南新道は、湘南地域における東西方向の交流連携の強化を図るとともに、圏央道への接続道路となる、4車線の幹線道路です。

このうち相模川から国道129号までの区間は、平成19年度までに整備が完了しており、現在、その西側に続く区間の整備を進めています。

都市計画道路 湘南新道



県道湘南台大神

県道湘南台大神は、湘南地域の北部で新たな東西軸を形成する4車線の幹線道路です。

圏央道の寒川北IC、藤沢市北部の工業団地や東海道新幹線新駅の誘致地区を中心としたツインシティへのアクセス強化を図る道路として、整備を進めています。

県道湘南台大神位置図



都市計画道路 西海岸線

都市計画道路西海岸線は、三浦半島地域の南北軸を形成する幹線道路です。

国道134号などの交通渋滞の緩和を図るとともに、地域経済の活性化に寄与する道路です。



県道藤沢座間厚木(Ⅱ期)

県道藤沢座間厚木は、湘南地域と県央地域を結ぶ幹線道路です。

このうち、厚木市内を東西に連絡するⅡ期区間は、国道129号などの交通混雑の緩和を図るとともに、圏央道の圏央厚木ICへのアクセスを改善する4車線の幹線道路として整備を進めています。

厚木市三田付近高架部整備状況

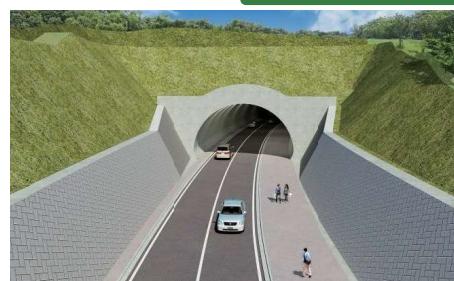


都市計画道路 城山多古線他

都市計画道路城山多古線は、小田原駅西口を起点とし、小田原市多古の都市計画道路小田原山北線に至る幹線道路です。

沿道に、公共施設等が多数あり、歩行者が多く、朝夕には著しい渋滞が発生することから、終点側の都市計画道路小田原山北線を一体整備することで、県西地域における道路ネットワークを強化し、交通の円滑化や歩行者の安全を図る道路として、整備を進めています。

小田原市久野付近イメージ図



都市計画道路 金子開成和田河原線

都市計画道路金子開成和田河原線は、大井町と隣接する開成町や、南足柄市の都市計画道路和田河原開成大井線に接続し、3市町を東西に貫く、重要な幹線道路です。

JR御殿場線との交差箇所は立体化する計画であり、県西地域の交通渋滞の緩和や防災機能を強化するとともに、地域経済の活性化に寄与する道路として、整備を進めています。

大井町金子付近イメージ図



県道相模原茅ヶ崎 (上郷立体)

県道相模原茅ヶ崎は、相模川の東側を南北に結ぶ4車線の幹線道路です。

JR相模線及び県道横浜厚木との交差箇所を立体化する計画であり、海老名駅周辺地域の交通円滑化や圏央道の海老名ICへのアクセス強化を図るもので、用地取得等を進めています。

海老名市上郷付近イメージ図

至 相模原市



都市計画道路 穴部国府津線他 (VI期)

都市計画道路穴部国府津線は、地域間の連携強化や小田原市中心部の混雑緩和を図るため、小田原市府川の県道小田原山北から、国道255号を経て、小田原市国府津の国道1号付近を結ぶ幹線道路です。

VI期区間は、狩川を渡河し、伊豆箱根鉄道大雄山線及び小田急急行線の2つの鉄道を高架橋で横断する計画であり、用地取得等を進めています。

小田急小田原線高架橋イメージ図



道の駅

道の駅は、道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供及び地域の振興に寄与することを目的とした施設であり、活力ある地域づくりや道を介した地域連携が促進されるなどの効果が期待される地方創生の拠点となっています。

県内では令和2年6月に、県内4番目の道の駅となる「足柄・金太郎のふるさと」が開所し、さらに「湘南ちがさき」においては、開所に向け事業が進められています。

神奈川県は、道の駅の設置・運営に取り組む市町村を支援し、整備を促進しています。

県内の道の駅位置図



道の駅「足柄・金太郎のふるさと」



道の駅「湘南ちがさき」施設(イメージ)



国土強靭化（老朽化・防災）対策

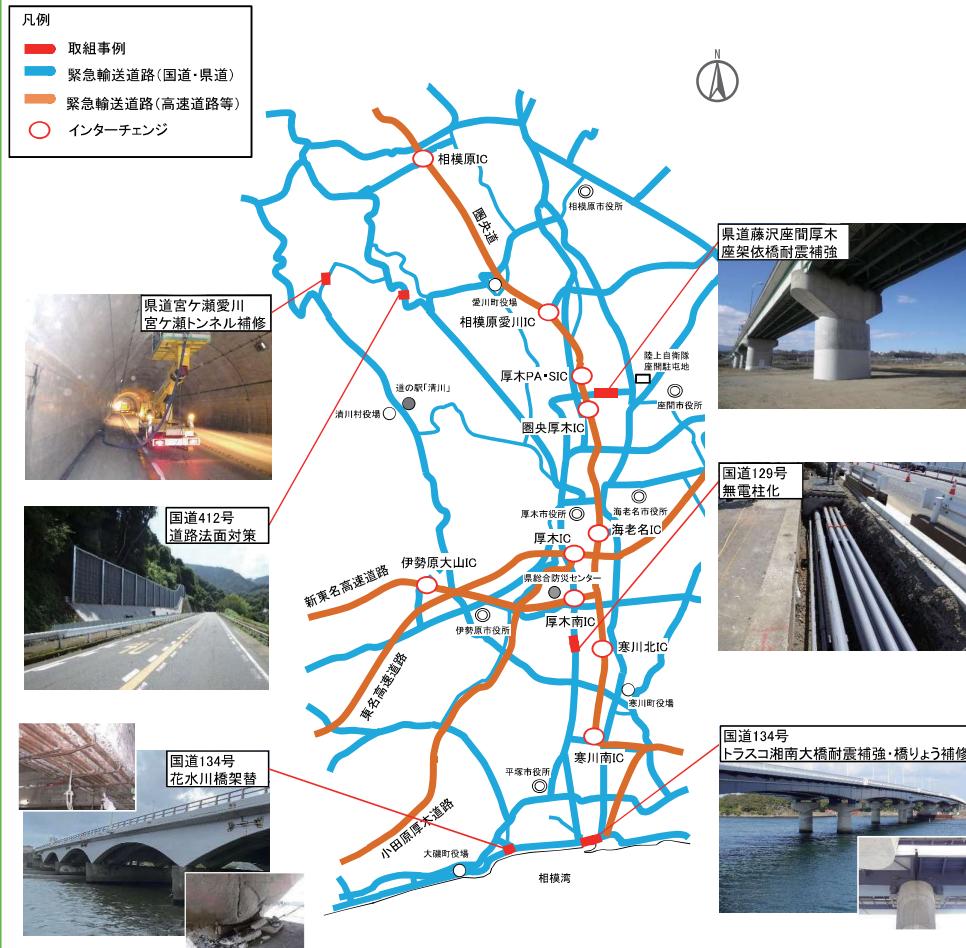
首都直下地震などの大規模災害の発生時に、救命救急活動や復旧活動等を支え、物資等の輸送を円滑かつ確実に行うために、緊急輸送道路の老朽化、防災対策を優先して進めています。

特に、近年の激甚化する災害に対応するため、政府の「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策」に基づき、災害時に国民経済・生活を支える道路の機能を維持できるよう、橋りょうの耐震補強等の防災対策を集中的に進めています。

県央・湘南地区における取組事例

東名高速道路や圏央道は、広域的な道路ネットワークを形成し、災害時には、全国からの支援物資の輸送など、重要な役割を担う道路です。

これらの道路と接続する国道や県道において、橋りょうの耐震補強、道路法面対策や無電柱化等を実施しています。



道路整備のストック効果

道路の整備により、移動時間の短縮や渋滞緩和、沿線地域の観光振興や企業活動の活性化など、様々なストック効果が発揮されています。

ストック効果…整備された社会资本が機能することで、整備直後から継続的かつ長期的にわたって得られる効果

圏央道（国土交通省・NEXCO東日本・NEXCO中日本）

北関東からの移動時間が半減

- 久喜白岡JCTから海老名JCTまでの移動時間が約60分短縮

圏央道開通後
約67分
(圏央道経由)

圏央道開通前
約130分
(東北道～首都高速～東名高速)



国土交通省・東日本高速道路㈱ 記者発表資料(H27.11.11)を基に作成

コロナ前の県内入込観光客数は増加傾向
平成29年から3年連続で2億人を突破

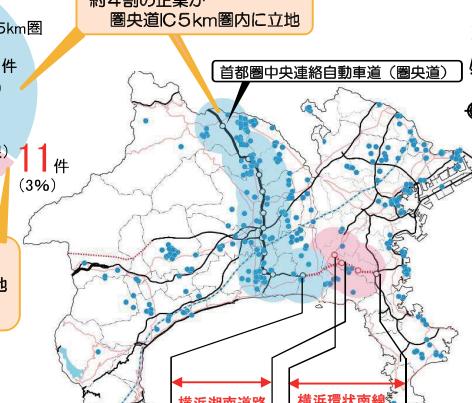
平成27年3月 湘南～関越道までつながる
平成27年10月 湘南～東北道までつながる



圏央道など自動車専用道路の沿線を中心に工場や研究施設が立地

その他 222件 (62%)
圏央道IC5km圏 125件 (35%)
圏央道IC5km圏 (横浜湘南道路・高速横浜環状南線)
11件 (3%)

今後、整備が進むにつれ、事業区間沿線への企業立地が期待される



※県の企業誘致施策
インベスト神奈川、
インベスト神奈川2ndステップ、
セレクト神奈川100、
セレクト神奈川NEXT
を活用し立地した企業を図示
(R5.7現在)

国土交通省関東地方整備局公共事業評価資料(R4.12.19)を基に作成

横浜北西線（首都高）

物流の効率化に寄与 ～横浜港へのアクセス性が向上～

- 横浜北西線の開通後、東名高速から大黒JCTへの利用者は、保土ヶ谷BP経由が混雑する朝ピーク時(6~8時)では、約6割が横浜北西線経由を選択し、**最大約15分の時間短縮**が図られました。

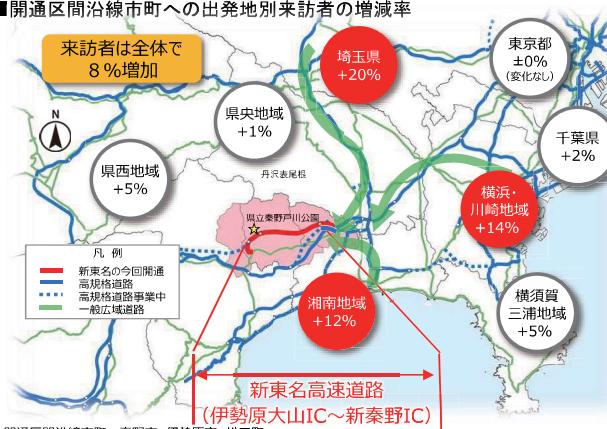


〈使用データ〉ETCデータ
〈集計結果〉開通後:2021年11月1日～11月30日の平日平均
首都高速道路㈱HP（R4.4.27）を基に作成

銀光旅館の来訪客が増加し、賑わいアップ

- 新東名高速道路の伊勢原大山ICから新秦野ICまでが開通後、埼玉県や横浜・川崎地域などの都心近郊から開通区間沿線市町への来訪者数が10%以上増加しており、広域からの誘客効果が図られています。

■開通区間沿線市町への出発地別来訪者の増減率



A photograph of a suspension bridge with a stone pier in the background, surrounded by greenery and purple hydrangea flowers in the foreground.

《觀光施設の声》

新秦野ICからのアクセスが近くなったことにより、東京・県央方面から往来する来園客から大変好評です

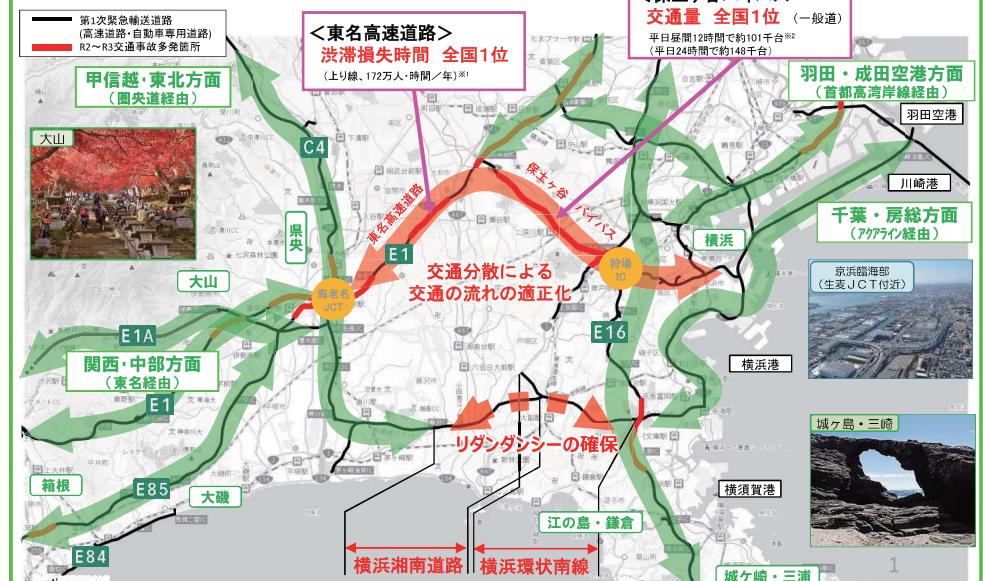
圈央道〔横浜湘南道路・高速横浜環状南線〕

(国土交通省・NEXCO東日本)

現在、県内では、圏央道の一部である横浜湘南道路・高速横浜環状南線の整備が進められており、この道路は、様々な分野での活用が期待されています。

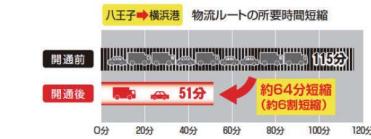
時間短縮・物流の効率化・観光振興に期待

- 横浜湘南道路と高速横浜環状南線が整備されると、横浜・三浦半島地域と県央・湘南地域等の連携が強化され、移動時間の短縮や交通混雑の緩和が図られます。
 - さらに、広域的な道路ネットワークが形成され、災害時におけるリダンダンシーの確保、定時性向上等による物流の効率化や観光振興が期待されます。



横須賀・三浦地域にある顧客企業の工場へ、東名経由で自社製品を納入しています。
横浜北部へ向回することなく、輸送の効率化が図られる新たなルートとして、横浜湘南道路・横浜環状南線の早期整備に期待します。(製造業)

- 横浜・三浦半島地域と県央・湘南地域等のアクセスが向上し、所要時間が大幅に短縮



国土交通省関東地方整備局公共事業評価資料(R4.12.19)
国土交通省横浜国道事務所HPを基に作成

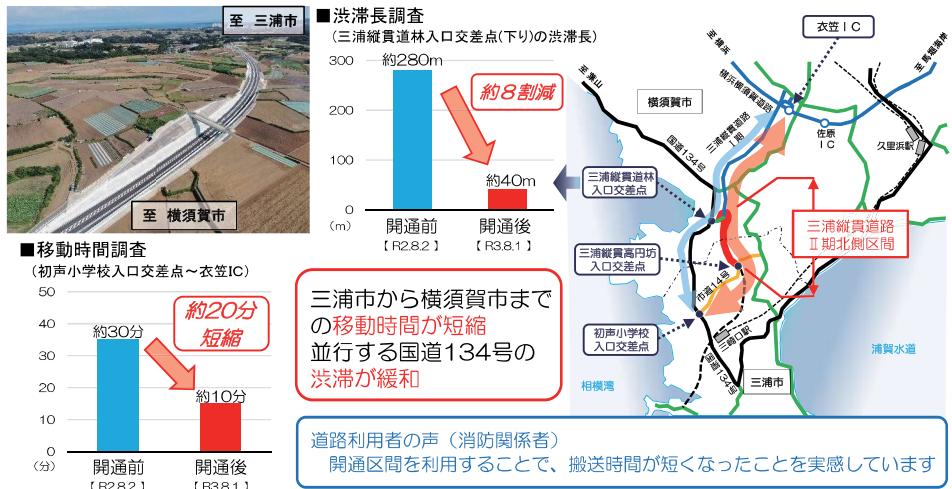
三浦縦貫道路Ⅱ期北側区間、はこね金太郎ライン (神奈川県)

三浦縦貫道路Ⅱ期北側区間(約1.9km)は、令和2年8月に供用を開始し、I期区間とあわせて三浦市域と横須賀市域が結ばれたことにより、移動時間の短縮や、周辺道路の渋滞緩和が図られました。

はこね金太郎ライン(県道矢倉沢仙石原)は、既存の林道を活用し、南足柄市と箱根町を結ぶ延長約10.9kmの道路で、令和3年4月に供用を開始しました。県西地域に新たな道路ネットワークが誕生したこと、観光地へのアクセスが向上しました。



三浦縦貫道路Ⅱ期北側区間の整備効果（移動時間の短縮、渋滞緩和）



はこね金太郎ラインの整備効果（移動時間の短縮）



写真提供

国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所

東日本高速道路株式会社

中日本高速道路株式会社

首都高速道路株式会社